

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 3 年 10 月 14 日 (2021.10.14)

【公開番号】特開 2020-36857 (P2020-36857A)  
【公開日】令和 2 年 3 月 12 日 (2020.3.12)  
【年通号数】公開・登録公報 2020-010  
【出願番号】特願 2018-166617 (P2018-166617)  
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 6 日 (2021.9.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

当否判定情報に基づき当否判定を行う当否判定手段と、  
ある当否判定情報が取得されたとき、当該ある当否判定情報よりも前に取得された先の当否判定情報に基づく先の当否判定結果の報知が完了していないときには、当該ある当否判定情報を変動前保留情報として記憶する記憶手段と、  
前記変動前保留情報が取得されることを契機として発生しうる演出であって、前記先の当否判定結果が当たりとなる蓋然性を示唆する後演出を実行する演出実行手段と、  
を備えることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記先の当否判定結果を報知する報知演出が開始されるよりも前に前記後演出の態様が初期態様から事後態様に変化し、当該事後態様により前記先の当否判定結果が当たりとなる蓋然性が示唆される場合があることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

ある前記変動前保留情報が取得されることを契機として第一後演出が発生した後、別の前記変動前保留情報が取得されることを契機として第二後演出が発生し、当該第一後演出および第二後演出により前記先の当否判定結果が当たりとなる蓋然性が示唆される場合があることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 4】

ある前記変動前保留情報が取得されることを契機として第一後演出が発生した後、別の前記変動前保留情報が取得されることを契機として当該第一後演出の内容を置換する第二後演出が発生し、当該第二後演出により前記先の当否判定結果が当たりとなる蓋然性が示唆される場合があることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。